

令和7年度 小金井市立小金井第二中学校学校経営方針

教育目標

社会の一員として自覚を高め、豊かな創造力と実践力をもった人間の育成を目指して

◎自他を認め、支えあう生徒

○すすんで学び、考え、行動する生徒

○心身を鍛え、たくましく生きる生徒

めざす学校像

- すべての生徒が心の居場所をもち、安心・安全に生活できる学校
- 生徒が自ら活動することで、主体性を育む学校
- これからの社会で活躍できる力を育む学校
- 学校・家庭・地域がともに協力し、生徒を育てていく学校

めざす教師像

- 学校の課題を理解し、その解決のために、組織の一員として、使命感をもって取り組む教師
- 生徒理解力、授業力の向上を常に目指して自己研鑽に励み、生徒の一人一人の「良さ」を伸ばすための努力を惜しまない教師
- 生徒・保護者や地域社会の期待に応え、信頼される教師

本年度の取組目標と方策

確かな学力に関する取組

- 生徒一人1台の ICT 端末の効果的な活用を通して「個別最適な学び」と「協働的な学び」の推進とその一体化の充実を図ることで、生徒が自ら学びを調整し粘り強く学習に取り組む態度を育成する。
- 生徒に身に付けさせたい力（目標）の明確な提示とその振り返りのある授業の実施により、生徒に自己の課題を把握できるようにさせ、家庭学習の充実につなげる。
- 指導と評価の一体化をめざし、授業改善、学習評価の改善を図る。

集団の育成及び社会性を育む取組

- 生徒会活動や学級活動などを通して、リーダーシップとフォロワーシップを意識させ、集団の一員としての意識の向上を図る。
- 社会における課題を「自分事化」する教育活動を充実させ、主体的に社会に関わる（自分の問題として捉え、行動できる）態度の育成を図る。
- 不登校・いじめの未然防止、早期発見、早期対応への組織的取組を推進する。

特別支援教育の充実

- 特別支援教室と連携し、通常学級における特別な配慮を要する生徒への支援の充実を図る。
- 特別支援学級の生徒と通常学級との交流活動を通して、生徒相互の理解を図る。

地域と連携・協働した学校運営の推進

- コミュニティスクールとして、学校運営協議会の充実を図る。
- 教育活動における地域資源・人材の活用を図る。



具体的教育活動

学習指導

【各教科】

- 生徒一人一台の ICT 端末を効果的に活用した授業方法について研究と実践を推進する。
- 授業の目標提示と、振り返りを工夫する。
- 生徒自身が自ら課題を克服できるように指導の方法を工夫する。

【特別の教科 道徳】

- 「考え、議論する」道徳の実践を通して、自分の生き方について考える授業の実践を推進する。

【総合的な学習の時間】

- 探究的な活動（調べる⇒共有する⇒新たな課題を発見する）を行うことで、社会の課題を自分事化して考え、実践する態度を育成する。

生活指導

- ルールを守る心、自主的・自律的な態度をもつ生徒を育てる。特に、「時間」を重点項目と定め、学校全体で規範意識を高める指導を徹底する。
- アンケート(年6回実施)や日頃の指導を通して、いじめのない学校を築く。
- 人権教育として、「小金井市子どもの権利条例」に関わる授業の実践を行う。

進路指導

- 生徒が、自分の道は自分で切り拓くことができるようにキャリアパスポートも活用しながら、一人一人の願いを把握し、情報提供の充実を図る。
- 1年生の「身近な人の職業調べ」、「人生の先輩の話を聞く会」や2年生「職場体験」、3年生「上級学校の体験授業」などの体験的学習を充実させる。

特別活動

【学級活動】

- 教師と生徒、生徒相互の心の触れ合いを大切にし、信頼関係を確立する。
- 学級活動における課題解決のための話し合い活動を数多く設定する。

【生徒会活動】

- 「自分たちの学校は自分たちで良くする」という意識の醸成を行う。
- 生徒会活動による「ハチドリプロジェクト」を展開する。

【学校行事】

- 実行委員会活動において、生徒自らが、学校行事を組織的・計画的に立案できる場面を意識的に設定する。

【部活動】

- 生徒が自発的・自主的な活動を行うことができるような指導の工夫を行う。